

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

コロナ禍の団体活動 2

人と暮らし、文化・芸術と

今号では文化芸術分野に焦点を当て、コロナ禍における団体活動について考えます。

今号の成り立ちと活動について

東京フィルハーモニーオーケストラ「副代表を務める吉崎直子さんにお話を伺いました。」

今回取材したのは「(一社)西東京市文化芸術振興会」です。会員は音楽、美術、舞踊、古典芸能から、映像、デザイナー、まちづくり関連など多岐にわたり、延べ80を超える個人や団体で構成されています。近年は主な事業として、①子ども文化芸術フェア、②田無駅北口のペDESTリアンデッキライブ、③フォトコンテスト・展示会・写真集作成を行う「西東京百景」を実施していましたが、昨年はどれも中止や規模の縮小を余儀なくされました。

今回は、設立当初からのメンバーで常務理事兼ジュニア事業担当の権藤成さん、理事でプロカメラマンの濱口太さん、会員で「TOKYO West ウィンド・オーケストラ」代表と「西



権藤さんが担当する「子ども文化芸術フェア～あっとアート体験!!」は、さまざまな団体がワークショップや発表を行うイベント。残念ながら昨年は中止となったが、子どもたちは無観客のこもれびホールでパフォーマンスを行った。

権藤 クラスを少人数に分けて複数回レッスンをしたり、発表会では感染対策を徹底しながらお客さんの定員を絞って実施したりと、みなさん本当に頑張っています。練習時のガイドラインを作って、数カ月ぶりに活動を再開した楽団もあります。一方で、どうしても密が避けられないからと、全く活動ができて

出てきてくださったことは、会としてとても大きかったです。ほかにも、若いアーティスト育成のためのクラシックコンテストを開催したり、FM西東京の番組「Art Radio」(現在60回以上放送)で市内の文化活動団体や個人を紹介したり、会員の文化交流会を隔月で開催するなど、市内の文化芸術振興のため、活動を行ってきました。

権藤 逆はこのコロナで、発表の場、練習の場、そもそも人と会って何かするというのが毛

権藤 私にとって音楽は日常です。日々の生活を楽しむ心地よい暮らしをするには、文化や芸術が必要不可欠だと感じます。濱口 市民の日頃の生活や風物景色の積み重ねがその土地の文化をつくります。「西東京百景」のプロジェクトも10年続ければそれは文化となり、西東京市の貴重な記録、文化的財産になると思っています。

権藤 もともとは市が「西東京市文化芸術振興条例(平成22年施行)」の策定に向け、その諮問機関として一般に呼びかけて発足した「西東京市文化芸術振興施策懇談会(平成17年)」のメンバーが中心となり、平成21年に設立されました。条例制定を契機に「文化芸術の香り溢れるまちづくり」のため、市民の声を結集し反映する機関となることを会の趣意としています。

権藤 会としてとても大切にしている「体験の機会」が、ほぼない状況になっていきます。子どもたちにさまざまな文化芸術体験をと、終日のおまつりとして生まれたのが「子ども文化芸術フェア」あっとアート体験!!です。準備期間に1年をかけたが、昨年は実施できませんでした。せめてもと、押さえてあったこもれびホールを使って、この日のためにオンライン練習で仕上げてきたダンスグループや、吹奏楽団の発表の場として、無観客で上演会を行いました。

権藤 個人としても恐怖心がつきまとい、家族の心配や周りの反対の中でどう行動していいかと苦労されている声も聞きます。

権藤 個人的には、生の文化がない生活というのは本当につらいです。いくらパソコンやテレビを

権藤 会としてはまだ決まっていなくて個人的にですが、例えば田無駅のペDESTリアンデッキライブを、市内5駅で開催できたらと思っています。また、こんな時期だからこそ会の理念に立ち返り、今まで蓄積したものを若い世代へ引き継いでいかなければと思っています。

権藤 会としてとても大切にしている「体験の機会」が、ほぼない状況になっていきます。子どもたちにさまざまな文化芸術体験をと、終日のおまつりとして生まれたのが「子ども文化芸術フェア」あっとアート体験!!です。準備期間に1年をかけたが、昨年は実施できませんでした。せめてもと、押さえてあったこもれびホールを使って、この日のためにオンライン練習で仕上げてきたダンスグループや、吹奏楽団の発表の場として、無観客で上演会を行いました。

権藤 個人としても恐怖心がつきまとい、家族の心配や周りの反対の中でどう行動していいかと苦労されている声も聞きます。

権藤 個人的には、生の文化がない生活というのは本当につらいです。いくらパソコンやテレビを

権藤 会としてはまだ決まっていなくて個人的にですが、例えば田無駅のペDESTリアンデッキライブを、市内5駅で開催できたらと思っています。また、こんな時期だからこそ会の理念に立ち返り、今まで蓄積したものを若い世代へ引き継いでいかなければと思っています。

恐怖心がつきまとい、家族の心配や周りの反対の中でどう行動していいかと苦労されている



吉崎さんが所属する「西東京フィルハーモニーオーケストラ」の練習の様子。数カ月ぶりの合奏練習は、感染対策を徹底して実施した。フルートは飛沫防止のマスクガードを着用。弦楽器も通常なら譜面台は2人で1台だが、今は1人1台ずつ使用している。

権藤 会としてはまだ決まっていなくて個人的にですが、例えば田無駅のペDESTリアンデッキライブを、市内5駅で開催できたらと思っています。また、こんな時期だからこそ会の理念に立ち返り、今まで蓄積したものを若い世代へ引き継いでいかなければと思っています。

10年続ければそれは文化となり、西東京市の貴重な記録、文化的財産にと思っています



濱口さんが手がけるプロ・アマ問わずのフォトコンテスト&展示会「西東京百景」。これは選出作品を掲載した写真集の1ページ。「百景」ではなく「百姿」という言葉に、人や地域の文化を記録しようという思いが込められている。